

協働によるまちづくりの取組事例を発信していくために

今日やること

達成目標:協働によるまちづくりの事例を持ち寄って情報共有すること

目的:まちづくりへの準参画層(興味はあるけどまだ動いていない人たち)へアプローチする(=ひろげる)ため
評価委員会が、協働のまちづくりの情報を持ち寄って発信していくHUB(ハブ)となるための情報共有を行います

タイム	やること	内容
5分	事務局より	意見交換の方法などについて説明
5分	個人ワーク	ご自身の知っている協働によるまちづくりの取組を付箋に書き出す 知っている取組が無い場合は、今日紹介した事例や市で取りまとめた事例に対して、いいなと思うポイントや、気になることを書き出す 【付箋に書くこと】 ・取組の名称 ・どんな取組ですか？ ・どんな主体が関わっていますか？ ・いいなと思うポイント ※付箋は思いついたことを自由に。1枚につき1事項で、大きめに書いてください。 
20分	共有タイム	書き出した内容を共有し、模造紙に貼る(1人2分程度) いいなと思ったポイント、もっと知りたいことなどが生まれたら、付箋に書いて模造紙に貼る

次回やること

- ・今日、話題にあがった取組で協働の事例に当てはまる取組については、ヒアリングを行い資料にまとめ、次回の会議時に提示します。
- ・次回の委員会では、市や中間支援組織が収集した取組を共有しながら、今日あがった取組も含めて、まちづくり活動をしている人、これから始める人が参考にできそうな事例について選定をし、選定された事例については、計画43ページ以降にあるような発信できる記事として作成します。
- ・作成した記事は市ホームページで公開していきます。

①くさっラウンドテーブル×新規採用職員研修

協働主体・役割

まちづくり協働課

→ラウンドテーブルおよび研修の企画・運営
(公財)草津市コミュニティ事業団

→ラウンドテーブルおよび研修の企画・運営
市民世話人

→ラウンドテーブルおよび研修の企画・運営

協働のきっかけ

新規採用職員に対し、市民と交流することの楽しさを伝えるとともに、今後協働を実践していける職員を育成するにはどのような研修が良いか検討していた際に、(公財)コミュニティ事業団および世話人からくさっラウンドテーブルとの協働開催について打診があった。

事業概要

地域課題の解決に向けた“対話”を重視した意見交換の場として、市民・市民公益活動団体・地域がフラットな立場で課題を共有し、気づきや学びを得ながら、協働事業の具体化を目指すきっかけづくりとして(公財)草津市コミュニティ事業団が実施している「くさっラウンドテーブル」と、市の新規採用研修(まちづくり協働課)のコラボレーション事業として実施したもの。

通年新規採用職員研修で実施する草津市の各主体や協働のまちづくりについての講座に加え、参加者である市民と新規採用職員が立場や肩書を取りはらってフラットに交流する機会を設けた。

取組内容と効果

入庁後間もない新規採用職員の時期に、まちづくりに取り組む様々な主体とフラットな交流を行うことで、まちづくりにいかに多くの人々が関わっているかや、市民との協働のおもしろさと重要性に気付くきっかけづくりができた。

協働で開催することによって、普段市職員と関わることのない市民もこれからの草津市をつくる新規採用職員と交流することができたことで、顔の見える関係を構築することができた。

【開催日】令和7年7月4日(金)【参加者数】市民38名、市職員37名

今後の展望

市職員と市民との顔の見える関係づくりを継続的に行うとともに、更に協働意識の向上を図るため、協働での取組の相乗効果が実感できるような研修に取り組み、協働の輪をひろげることができる職員の育成を行っていく必要がある。

第1回 くさっラウンドテーブル

「まちのこと、ゆる〜く語ろう会」

～おしゃべりから始まる、
あたらしいつながり～



ラウンドテーブルとは
テーマに沿って
年齢・肩書き関係なくフラットな立場で
「こうだったらいいな」「こんなことでいたら楽しい」
「あんなことでいたら楽しい」
など自由に意見交換できる場です

2025
7/4 金
13:30～16:00 定員 40名
キラエ草津 6階 参加費無料

おしゃべりから始まる、あたらしいつながり。
「こうだったらいいな」「こんなことでいたら楽しい」
そんな思いや、自分が想う“まち”を自由に話せる
交流の場です。
世代も肩書きも関係なく、まずはおしゃべりから。
聞くだけでも、うなずくだけでも、大丈夫。
市の新規採用職員もフラットな立場で参加予定。
交流を楽しもう。

QRコード・電話・メール
にてお申込みください

主催 (公財) 草津市コミュニティ事業団
申込先 TEL 077-565-0477 com-com@mx.biwa.ne.jp
協力 草津市・くさっラウンドテーブル世話人会

申込フォーム

<https://forms.gle/6A8B9m9eQ5CoIP9>

②「こども・若者の声を形に」プロジェクト推進事業

協働主体・役割

こども若者政策課

→会場の設定、参加者の募集、協働事業実施の決定

合同会社コミニタス(業務委託)

→全体事業企画、コーディネート、伴走支援、協議録、報告書の作成

◆3つの対話事業

①こどもサミット

草津市教育委員会、6中学校

→市長と中学生の対話の場の提供

②まちのジブンゴトfeel→do!

立命館大学feel→do!運営チーム

→アイデアブレストの協働実施

③ワカモンラウンド

ワカモンラウンド実行委員会

→若者対話事業の協働実施

◆2つの協働事業

①Let'sまなビバ

市内4中学校有志7人の中学生

立命館大学IVUSA京都・草津クラブ

市民交流プラザ

→中学生の企画実施とそのサポート

②くさつハッケンジャー

CLUB ATTRACTION

草津市観光物産協会

草津まちづくり会社

草津本陣・草津街道交流館

→大学生の企画実施とそのサポート

協働のきっかけ

令和7年度スタートの「草津市こども・若者計画」において、「こども・若者の社会参画・意見表明」を重点的な取組として位置付け。こども・若者との対話ややりたいことの提案の具体化には、コーディネートや伴走支援、協働事業運営のノウハウが必要で、それらを有する合同会社コミニタスに業務委託を打診した。

事業概要

「こどもまんなか社会」の実現に向け、こども基本法では、こどもや若者(0歳から39歳まで)の意見を表明する機会が確保され、その意見を尊重し、反映させるために必要な措置を講ずることが定められている。こども・若者の意見を直接聴く対話事業に加え、その意見を反映するため、意見の当事者や市民団体等および市が協働して実施する協働事業を一体的に行った。



↑対話(こどもサミット)→協働(Let'sまなビバ!) ↓対話(まちのジブンゴトfeel→do!)→協働(クサツハッケンジャー)



②「こども・若者の声を形に」プロジェクト推進事業

取組内容と効果

(内容)

- ①こども意見ファシリテーターのコーディネートのもと、中学生、大学生、20代30代の若者等との対話事業を3回実施。
- ②対話事業の中で出た意見を、提案者である中学生や大学生が主体となって、大学生や関係機関等と協働し、2つを事業化。

(効果)

①対話事業

市長と中学生、年代の違うこども、若者や市民で行うアイデアブレスト、職場が異なり出会うことのない20代30代の若者との対話は、自分の暮らしを振り返るきっかけになったり、そこで話し合われたアイデアの種が具体化するきっかけとなった。

②Let'sまなびバ

中学生から出た提案をもとに事業化。「自習スペース不足」の解決や、学校間の交流の場としての要素も交え、学習領域に留まらない多様なアウトプットが盛んに行われた。準備段階から、中学生が主体で大学生もサポートに入り、成功体験が自己有用感の醸成につながった。

③くさつハッケンジャー

大学生から出た提案をもとに事業化。小学生等に対する、草津のまちや歴史に関する、なぞ解き・探検・発表の場づくりを関係機関が協力しながら大学生が主体的に行った。主催した大学生にとっては、行政や関係機関と連携した事業運営は新鮮で、成功体験を通じた自己有用感や社会貢献意欲の醸成につながった。参加した小学生にとっては、新しい発見や出会いが、刺激となった。

今後の展望

令和8年度は予算規模を拡大し、対話と協働事業に加えて、公共施設3施設を活用した「高校生から20代、30代の居場所交流事業」にも取組む予定。

こども・若者との対話や協働を継続し、主体的な社会参画の促進を促し、成長と社会の意識変革を進める。



↑ 令和7年度対話(ワカモンラウンド)

③女性のチャレンジ応援塾

協働主体・役割

市民団体くさつ☆パールプロジェクトチーム

→企画・運営・チラシ等作成・広報・参加者支援等
男女共同参画センター

→広報・参加者管理・参加者支援等

協働のきっかけ

第4次草津市男女共同参画推進計画の施策のひとつ、女性の活躍推進「女性の職業能力の開発と就業のための支援」の取組として、男女共同参画センターを拠点として、市民、事業者、各種団体、教育にかかわる人と協働しながら、「男女(誰も)がともに喜びと責任を分かち合う協働のまち 草津」の実現をめざしていく。

事業概要

女性の人材育成と社会進出を支援するため、起業講座等の開催や起業をめざす女性に対するチャレンジの場の提供の他、女性起業家同士のネットワーク構築を図る等の支援を行った。

取組内容と効果

女性の人材育成と社会進出を支援するため、起業についての基礎知識を学ぶ講座と実務的な講座と2段階で開催し、知識の習得、意識醸成を図った。金融、資産形成についての学びの機会を提供するため、経済的自立に欠かせないマネーリテラシー習得の講座、起業するにあたり、また起業後も必須となるビジネスマナー等を学ぶ講座等を開催した。修了生の継続支援とともに、キャリア形成や社会活動に向けた意欲の向上や交流を通じたネットワークの創出につなげるため、アフターフォローも行った。

これらを実施した結果、アンケートでは全講座受講者の97.8%から「役に立った」「少し役に立った」と回答があった。市民団体と協働することで、団体が持つ独自の発想、専門性、柔軟性等を活かし、効果的に事業を実施することが出来た。

- ・ベーシック講座:5/13,6/3,7/1(連続3回) 参加者:44名
- ・起業リテラシーアップ講座:8/5,9/2,10/7,11/4(連続4回) 参加者:32名
- ・マネーリテラシーアップ講座:8/26,9/16(連続2回) 参加者:12名
- ・金融リテラシーアップ講座:10/21,11/18(連続2回) 参加者:16名

今後の展望

引き続き、「女性の職業能力の開発と就業のための支援」として本事業を実施する。また、令和7年度から多数の参加者が受講できる座学メインの講座形式に改めたため、受講生同士の意見交換や情報共有の機会を設けるためのさらなる工夫の必要がある。今後も市民団体と協働実施し、女性の社会進出を支援するとともに地域の活性化に繋げていく。

The image shows two promotional posters for 'Learning Studio KUSATSU IZM'. The top poster is titled '第4次草津市男女共同参画推進計画の施策のひとつ、女性の活躍推進「女性の職業能力の開発と就業のための支援」の取組として' and lists various workshops and seminars. The bottom poster is titled '女性の職業能力の開発と就業のための支援' and lists various workshops and seminars. Both posters include details about the workshops, such as the topics, dates, times, and fees. They also feature images of people participating in the workshops and a QR code for more information.

[illegible]

⑤女性の居場所づくり

協働主体・役割

市民団体まちのコミュニティハブ ツナグ
→企画・運営・チラシ作成・広報・相談対応等
男女共同参画センター
→広報・相談対応等

事業概要

貧困・孤立・孤独により不安を抱える女性が、社会の絆・つながりを回復することができるよう、誰かと悩みを共感することや、早期に相談できる環境整備のため女性の居場所づくりを実施した。

取組内容と効果

飲み物等を無料提供したり、簡易なワークショップを実施したりして、誰もが気軽に参加しやすい環境を整えたり、開催時間中は、参加者同士で関わりを持たなくても、自由な時間に来ても、ワークショップ等に参加しなくても、居場所に参加しやすいような場づくりに取り組むとともに、相談が必要と思われるケースについては、相談窓口につなげた。

その結果、貧困・孤立・孤独により不安を抱える女性が、つながりを回復するきっかけを作ることができた。

市民団体と協働することで、団体が持つ情報発信力、イベント開催の豊富な経験とノウハウ、対応力を活かし、効果的に事業を実施することが出来た。

・5/17,7/9,9/20,11/19,1/17,3/11 参加者:延べ82名

今後の展望

引き続き、相談窓口へ積極的な連携を行い、参加者が相談できる場づくりに取り組む。多様な内容のワークショップを織り交ぜて開催したため、様々な層からの参加があったが、単発参加の方も多かった。貧困・孤独・孤立など不安を抱える女性の居場所となるよう参加者との信頼関係を構築していくことが必要である。今後も市民団体と協働実施し、不安を抱える女性が必要に応じて早期に相談窓口につながるよう、取り組んでいく。

協働のきっかけ

第4次草津市男女共同参画推進計画の施策のひとつ、さまざまな課題・困難を抱える人々への支援「相談体制の充実」の取組として、男女共同参画センターを拠点として、市民、事業者、各種団体、教育にかかわる人と協働しながら、「男女(誰も)がともに喜びと責任を分かち合う協働のまち 草津」の実現をめざしていく。

令和7年度5月～令和8年3月

ほっと一息 気持ち すっきり

あい・ふらっとサロン

サロンは10時OPEN!

サロン参加は無料
(OPEN時間 10:00～12:00)
お茶とお菓子をご用意しております

対象：女性
(子ども同伴OKですが託児はありません)

サロンの参加は無料、ワークショップは一部参加費がかかります。
サロンでゆっくりするのもよし、おしゃべりの合間にワークショップに参加するのもよし◎
お茶とお菓子をご用意しています。ほっと一息つく時間を過ごしませんか？

同時開催 ワークショップ

7/9 (水) 女性向けヨガ
時間：10:30～11:30
費用：300円
講師：佐藤三佳

9/20 (土) バランスボール
時間：10:30～11:30
費用：300円
講師：矢野さきこ

11/19 (水) レジンアクセサリー
時間：10:00～12:00
費用：300円
講師：畑長由美子

令和8年1/17 (土) 心理学による性格診断
時間：10:30～11:30
費用：300円
講師：ト部南紀

令和8年3/11 (水) 助産師による女性の健康講座
時間：10:30～11:30
費用：300円
講師：中島理恵

5/17 (土) キーホルダー作成
時間：10:00～12:00
費用：300円
講師：川島美穂

ご予約不要
ワークショップ：当日先着20名程度

ご確認ください
ワークショップの内容は変更になることもございます。詳細は右記ホームページにて随時更新しておりますので参加前にご確認ください。

会場
キラリエ草津 草津市男女共同参画センター
〒410-0834 草津市中央2丁目1番35号
JR「草津」駅から徒歩約5分

草津市男女共同参画センター「あい・ふらっと」
誰もがお互いを認め合い、慈しみ合い、対等(フラット)なパートナーとして共に歩んでいける社会を目指し、悩んだり迷ったりしたときにふらっと立ち寄れる地域の温かいセンターです。何でも、お気軽にご相談ください。

共催・お問い合わせ先
草津市男女共同参画センター「あい・ふらっと」
まちのコミュニティハブ ツナグ
TEL: 077-565-1550 mail: danjo@city.kusatsu.lg.jp
mail: tsunagu_kusatsu@yahoo.co.jp

⑥啓発紙「みんなで一步」作成業務

協働主体・役割

市民団体まちのコミュニティハブ ツナグ
→企画・運営・編集・印刷・周知等
男女共同参画センター
→編集・周知等

協働のきっかけ

第4次草津市男女共同参画推進計画の施策である、男女共同参画の意識づくり「広報くさつ・市ホームページ等を通じた啓発」、女性の活躍推進「女性の活躍推進に向けた気運の醸成」の取組として、男女共同参画センターを拠点として、市民、事業者、各種団体、教育にかかわる人と協働しながら、「男女(誰も)がともに喜びと責任を分かち合う協働のまち 草津」の実現をめざしていく。

事業概要

男女共同参画・女性活躍に関する情報発信を行うための啓発紙を作成し周知啓発を行った。

取組内容と効果

育児・介護休業法の改正、働きやすい職場環境づくりについて等の内容の啓発紙「みんなで一步」を発行した。公共施設設置したり、市内事業所に送付して設置依頼したりした。また、男女共同参画・女性活躍推進フォーラムや講座の参加者や転入者等に配布した。その結果、男女共同参画の意識啓発ができた。

市民団体と協働することで、団体が持つ編集・情報発信力、その豊富な経験とノウハウを活かし、効果的に事業を実施することが出来た。

今後の展望

引き続き、男女共同参画の意識づくり、女性の活躍推進に向けた気運の醸成のためより多くの方に啓発紙を手にとってもらい、男女共同参画の意識啓発ができるよう、啓発紙の内容を工夫するとともに、配布先や配布方法を検討する必要がある。今後も市民団体と協働実施し、男女共同参画・女性活躍推進の意識啓発に取り組んでいく。



⑦学生スタッフ（UDCみなくさ）

協働主体・役割

アーバンデザインセンターみなくさ
→大学生のオフキャンパスにおけるまちづくりへの
参画機会の創出
大学生
→南草津エリアにおける地域課題の解決やまちづくり
に寄与するプロジェクトの実施
その他関係各課/まちづくり協議会/企業 等

事業概要

アーバンデザインセンターみなくさが募集し、参画する大学生が主体となり、南草津エリアの地域課題
解決やまちづくりに取り組むという事業。

プロジェクトについては、企画立案から事業実施、調査・分析、成果報告までを大学生が一貫して行い、
企画運営に際して同センターによって各主体との連携等に関する支援を行う。

取組内容と効果

令和7年度については、19人の学生が参画し、にぎわいの創出・演出、広報、公共交通、UDCみなくさ
における空間デザイン等のテーマをもとに5つの班に分かれそれぞれプロジェクトを実施した。

例えば、にぎわいの創出の一環として草津市野路で生産されている”野路芋”の認知向上および継承に
働きかける野路芋班においては、遺跡と萩の育む玉川まちづくり推進会議と協働し、玉川萩まつりやみ
なくさままつりに出展し、野路芋を使用したコロッケを販売するとともに、野路芋の袋栽培の周知活動に取り
組んでおり、地域のにぎわい創出および文化の継承に貢献している。

その他の班についても、市や民間企業、市民等と連携しながら、オフキャンパスにおける学生によるま
ちづくりに取り組んでいる。

今後の展望

令和7年9月の法人化を契機に、学生主体によるまちづくりをより柔軟に推進していく。また、学部横断
的な参画に加え、南草津エリアに居住する他大学の学生にもアプローチすることで、学生参画の広がりを
図る。

これまでの実績を通じて蓄積されたノウハウを学生間で継承し、学生主導で取り組みが自走する体制
づくりを進めるとともに、産学公民が連携したまちづくりの定着と発展を目指す。

協働のきっかけ

UDCみなくさの前身であるUDCBKでは、学生との関わりが短期
的にとどまり、学生主体の自由な発想による継続的・実践的な活動が
不足していたことから、長期的な活動創出が課題となっていた。

令和5年12月に松山アーバンデザインセンター(UDCM)を視察した
際に紹介された学生スタッフの取組を参考に、令和6年度から南草津
版学生スタッフを始動した。

【学生スタッフ】

座談会:4/18,19,25,26(各回数名)
全体会:5月以降隔月第4金曜日(各回~19名)
成果報告会:2/26(学生19名+関係者約10名)

【野路芋班】

袋栽培植え付け(手伝い):5/29(学生1名・酒・味・湯の会(地域の
方々)4名・玉川まちづくりセンター4名・元湖南農業高校教員1名)
玉川萩まつり:10/18(コロッケ262個販売・アンケート回答者数1
3名)
みなくさままつり:11/16(コロッケ257個販売・アンケート回答者数
62名)

袋栽培植え付け(手伝い)



みなくさままつり



成果報告会



協働チャレンジ事業

私発協働

⑧第3回子育て応援フェスタ

協働主体・役割

まちのコミュニティハブ ツナグ
合同会社 コミニタス
子育て相談センター
→第3回「子育て応援フェスタ」の企画・運営
コミュニティ事業団
まちづくり協働課
→協働団体と市との仲介役

事業概要

市と民間が一体となり、こどもの育ちと子育て家庭を応援し、【日本一子育てしやすいまち】を目指して開催した。子育て親子の交流や乳幼児から小学生までが楽しめるイベントなどを企画した。また、地域の子育てを応援したい市民活動団体・学生団体や地域貢献を行う企業(事業者)などにも出展してもらうことで、子育て層と地域の事業所、相談機関とのこれまでにない新たな出会い・つながりづくりをコーディネートし、多世代交流や共同事業創発のきっかけとする。

取組内容と効果

キラリエ草津にて、令和5年度に初めて開催して以降3回目となり、さらにパワーアップして家族で楽しめるイベントや子育て中の保護者の相談会を行った。官民協働に加え、立命館大学の団体、キラリエサポーターやワークショップを得意とする事業者などに参画いただき、交流機能を高め新たなつながりづくりの場となった。

開催日時:令和8年2月21日(土) 開催場所:キラリエ草津 出展数:35企画 来場者数:512人

内容:スタンプラリー、あい・ふらっとサロン、謎解きラリー ほか

今後の展望

地域の子育てを応援したい市民活動団体、学生団体、企業と参加者が楽しみながら様々な分野のイベントを通じた顔の見える関係づくりを継続し、相互に子育て家庭や地域課題を共有することで、課題解決に向けた効果が期待できる。

協働のきっかけ

くさつラウンドテーブルをきっかけに始まった事業である。令和5年度は、こどもまんなか助成金を活用して事業を実施した。令和6年度、令和7年度はまちづくり協働課の協働チャレンジ事業で提案され、採択されたものである。



⑨ くさつ華あかりフェスタ

協働主体・役割

草津商工会議所
→実行委員会の事務局運営、企画・運営への参画等
草津青年会議所 →企画・運営への参画等
草津市商店街連盟 →企画・運営への参画等
草津市観光物産協会 →企画・運営への参画等
草津市観光ボランティアガイド協会→企画・運営への参画等
草津まちづくり(株) →企画・運営への参画等
商工観光労政課 →企画・運営への参画等

協働のきっかけ

平成15年度より「草津街あかり華あかり夢あかり」として草津の秋の風物詩として実施されてきたが、令和6年度に昨今の街並みの変化などの変化に応じて、新たに「くさつ華あかりフェスタ」として実施されることとなった。

事業概要

周辺のマス・マーケット充足にともない、商業地として徐々に地盤沈下しつつある草津市の中心市街地を秋の風物詩「くさつ華あかりフェスタ」により草津市の魅力を再発見する。また、秋の夜に大勢の人に音と光とフードを楽しんでいただき、地域や店舗のファンづくりの一環として、草津市内外のメッセージを送ることで、来草を促し地域の発展につなげる。

取組内容と効果

草津川跡地公園de愛ひろばをメイン会場に、華やかなイルミネーションやくさつ夢あかりマーケットなど、地域の団体や事業者等と連携しながら、音と光と食を楽しむ秋の草津を演出した。多様な主体が協働して地域の魅力を発信することで、来場者に草津の新たな魅力を伝えとともに、中心市街地のにぎわい創出と活性化に寄与することができた。

開催日時:令和7年11月8日(土)
来場者数:10,000人

今後の展望

引き続き、地域の団体や事業者等との連携・協働を深めながら、秋の風物詩として事業を継続させることで、草津市の魅力を再発見するとともに、来草を促し地域の発展につなげていく。



⑩ みなくさまつり

協働主体・役割

遺跡と萩を育む玉川まちづくり推進会議 → 企画・運営への参画等
 草津商工会議所 青年部 → 実行委員会・企画・運営への参画等
 草津青年会議所 → 実行委員会・企画・運営への参画等
 立命館大学 → 実行委員会・企画・運営への参画等
 (株)メディアエージェンシー → 事務局
 商工観光労政課 → 実行委員会・企画・運営への参画等

事業概要

「えん(円、縁)でつなぐ地域のイベント」をテーマに、“地域発信型のまつり”として定着しており、草津市、立命館大学、草津商工会議所、草津青年会議所および地域の住民が事業を通じてさらなる連携を深めていくを目的としている。

取組内容と効果

市民交流イベントや「みなくさステージ」などの開催を通じて、地元事業者と地域住民の繋がりや住民同士の新たな繋がりを醸成することで、地域の活性化に寄与することができた。

また、立命館大学や協賛企業からのご支援もあり、産官学に地域(住民)を加えた一体的な事業として実現できた。

開催日時: 令和7年11月16日

来場者数: 24,000人

今後の展望

引き続き、「えん(円、縁)でつなぐ地域のイベント」をテーマに、地域住民と産官学が協働し、地域の発展に貢献してまいります。

協働のきっかけ

平成23年の「JR南草津駅」に新快速の停車が実現した年に、「駅を利用している地元の人や、市外や県外の人たちの間に交流が生まれ、みんなでこの地域を盛り上げていきたい」という思いで「えん(円、縁)でつなぐ地域のイベント」をテーマにスタートした。



⑪草津ヨシ松明まつり

協働主体・役割

人と地域が輝く常盤協議会 →企画・運営への参画等
 常盤学区自治連合会 →企画・運営への参画等
 North Wind Genereate Club
 →企画・運営への参画等
 草津北部まちづくり協議会
 →実行委員会・事務局・企画・運営への参画等
 草津市観光物産協会、淡海環境保全団体
 →後援団体

協働のきっかけ

琵琶湖の生態系や水環境への関心を高め、ヨシ群落を守り育てる必要性を感じてもらうために平成23年から地元が中心となって再開させたまつりです。

事業概要

琵琶湖の生態系や水環境への関心を深めていただき、ヨシ群生を守り育てることの必要性の啓発と、草津市湖岸の観光誘致を図ることを目的とします。

さらに、2016年夏頃、壊滅的に姿を消した烏丸半島周辺のハス群生の再生を目指し、試行的に水田でハスの栽培を継続しており、母なる琵琶湖を守る心育むイベントとして、ヨシ松明の炎と約1,000発の花火にその思いを込めます。

取組内容と効果

ヨシ刈り、ヨシ松明まつりの取り組みにおいて、地域・ボランティア・民間事業者・行政が役割を分担しています。その結果、ライブステージや花火といった、単独団体では実現が難しいイベント開催が可能となり、さらに、特定団体に負荷が偏らないことで、事業の持続可能性が高まり、地域に根差したイベントとしての継続を実現しています。

開催日時:令和7年7月26日(土)

来場者数:10,000人

今後の展望

今後も、地域・ボランティア・民間企業・行政の強みを活かした連携体制を構築してまいります。さらに琵琶湖の生態系や水環境への関心を深めていただき、ヨシ群生を守り育てることの必要性の啓発と、草津市湖岸の観光誘致を図ることを目指します。さらに草津を代表する夏の花火大会(まつり)としても知名度を上げていきたいと思ひます。



⑫草津宿場まつり

協働主体・役割

草津市観光物産協会、有限会社ロズウェル

→実行委員会・事務局・企画・運営への参画等

草津商工会議所、草津青年会議所 草津市観光ボランティアガイド協会、えふえむ草津、草津市商店街連盟、まちづくり協議会連合会、淡海陶芸研究所、草津Yクラブ、NPO法人ディフェンス、レイカディア大学同窓会、商工観光労政課、草津宿街道交流館、インフロンア草津アクアティクスセンター

→企画・運営への参画等

事業概要

宿場町草津のシンボルである草津宿本陣を中心に、草津市民や訪れる観光客が街道文化を共に学び交流を深め、東海道と中山道の結節点としての歴史を感じるとともに、春の一大イベントとして、草津市を市内外に情報発信し、草津市のイメージアップと観光客の誘致を目指す。

取組内容と効果

草津川跡地公園de愛ひろばエリア、東海道筋、市役所エリアを会場に、豪華絢爛な時代行列やステージイベント、飲食縁日ブースなどを実施しました。また、時代行列などのパレードには市民も参加する形で展開しました。その結果、来場者は草津の春を存分に楽しむことができ、地域住民と来場者の双方に楽しんでもらえるイベントとして成功しました。市民参加型の取り組みにより、地域の一体感も醸成されました。

開催日時：令和7年4月27日(日)

来場者数：70,000人

今後の展望

引き続き、春の一大イベントとして草津市内を市内外にPR、情報発信し草津市のイメージアップと観光客誘致を引き続き目指してまいります。

また、さらなる地域住民や来場者の参加、交流を促進していきます。

協働のきっかけ

前身は、1948年から始まった「さくらまつり」。

草津小学校の卒業記念として植えられた桜並木の開花に合わせて、立木神社から小汐井神社までの約1kmを浴衣・花笠姿の人たちが、草津音頭を踊りながら練り歩き、それを花見と一緒に楽しむという行事でした。

20年間続けられた「さくらまつり」が終了した翌年に生まれたのが「草津宿場まつり」。

第1回目は、1969年4月12日・13日に開催され、立木神社から旧宿場町の商店街を通り、小汐井神社までパレードが行われました。

パレードは、鼓笛隊とバトンガール、オープンカーパレード、市長や市議会議員による参勤交代をまねた大名行列で構成されました。



⑬第3次草津市環境基本計画「志津里山自然学校」

協働主体・役割

環境政策課

→「志津里山自然学校」の企画・運営補助

志津まちづくり協議会

→「志津里山自然学校」の企画・運営

市民ボランティア

→「志津里山自然学校」の企画・運営補助

協働のきっかけ

市内14の地区に「いきもの自然学校」のモデル地域の指定を募ったところ、志津地区から指定の打診があった。

事業概要

第3次草津市環境基本計画の重点事業の一つである「いきもの自然学校」のモデル地域「志津地区」で、地域住民が自然体験を通じ、自然と人とのふれあいや環境について総合的に学べる環境学習を年間6回実施したもの。

取組内容と効果

志津の里山を活動の拠点とし、「開校式・森であそぼう」、「ホタルと友達になろう」、「みんなで伐採にチャレンジ」、「収穫祭で楽しもう」、「みんなで薪づくりにチャレンジ」、「どんぐりを植えてみよう・閉校式」の計6回の環境学習プログラムを、市と地域との協働で実施し、自然体験活動や生物多様性について楽しみながら学ぶことができた。

また、普段から地域住民と密接な関係を構築しているまちづくり協議会との協働により、行政だけでは実現しえなかった地域住民の人材育成を行うことができた。

・実施回数:6回、参加者数:18名

今後の展望

当初は市主導で活動を実施していたが、地域主導の活動に切り替えるべく、令和8年度は地域の運営委員会主導で企画・運営を実施する必要がある。

また、運営委員会の企画・運営を担う人材を継続的に育成していく必要がある。

地域主導への切替えにより、地域が主体的に活動を実施することで、環境の保護や保全について率先した行動を推進する人材の育成を、地域自らが図ることができる。

丸太・枝切体験



⑭第3次草津市環境基本計画「笠縫東いきもの自然学校」

協働主体・役割

環境政策課

→「笠縫東いきもの自然学校」の企画・運営補助
笠縫東まちづくり協議会

→「笠縫東いきもの自然学校」の企画・運営
市民ボランティア

→「笠縫東いきもの自然学校」の企画・運営補助

協働のきっかけ

市内14の地区に「いきもの自然学校」のモデル地域の指定を募ったところ、笠縫東学区から指定の打診があった。

事業概要

第3次草津市環境基本計画の重点事業の一つである「いきもの自然学校」のモデル地域「笠縫東学区」で、地域住民が自然体験を通じ、自然と人とのふれあいや環境について総合的に学べる環境学習を年間3回実施したもの。

取組内容と効果

葉山川や中ノ井川をはじめ緑豊かな田園に囲まれた自然環境の中で、「草花観察会」、「ほたるフェスタ」、「葉山川いきもの調査」の計3回の環境学習プログラムを、市と地域との協働で実施し、自然体験活動や生物多様性について楽しみながら学ぶことができた。

・実施回数：3回、参加者数：29名

今後の展望

現時点では市が主導して活動を実施しているが、今後は地域主導に切り替えていけるよう、企画・運営を担える運営委員会等の活動母体を作り上げていく必要がある。

また、運営委員会の企画・運営を担う人材の育成も、併せて実施していく必要がある。

地域主導への切替えにより、地域が主体的に活動を実施することで、環境の保護や保全について率先した行動を推進する人材の育成を、地域自らが図ることができる。

ホタルフェスタ



葉山川でいきもの採取



協働チャレンジ事業

⑮ 協働サポーター 障害者理解促進業務

協働主体・役割

障害福祉課

- 出前講座に関する運営・調整、
研修事業に関する調整・周知
(特非) 草津手をつなぐ育成会
- 出前講座への障害者理解啓発ワークショップの
実施・周知、研修事業に関する企画・運営

事業概要

- ① 障害福祉課の実施する出前講座に「びわこ☆めだか隊」が出動し、障害のある方の疑似体験などのワークショップを実施し障害者理解を促進する。
- ② 地域で安心して暮らし続けられるよう、障害福祉に関する制度の学習会や講演会を実施する。

取組内容と効果

障害福祉課の実施する出前講座に「びわこ☆めだか隊」が出動し、受講者の方に障害のある方の物の見え方や感じ方などを疑似体験していただくことで、障害のある方への理解を深める機会づくりができた。

また、障害福祉に関連する制度の学習室等を実施することで、当事者やその家族の方が地域で安心して暮らすための一助となるような取り組みを行うことができた。

- ① 「びわこ☆めだか隊」出前講座・・・実施回数：7回、参加者数：183人(延べ)
- ② 研修事業・・・実施回数：5回、参加者数：186人(延べ)

今後の展望

障害のある方の疑似体験については、今後も継続的に行い、障害理解をさらに深めるとともに、障害福祉に関する制度について知る機会を提供することによって、障害のある方やその家族が地域で安心して暮らせるような環境づくりに取り組んでいく必要がある。

協働のきっかけ

令和6年3月に草津市で策定された第3次草津市障害者計画において、成果目標の達成に向けた施策としても掲げている、「障害と障害のある人への理解促進」の推進にはどのような方法が良いか検討していた際に、(特非)草津手をつなぐ育成会から「びわこ☆めだか隊」の出前講座への出動について打診があった。

当時「びわこ☆めだか隊」の活動は民生委員研修や行政機関向けの研修にて好評を得ていたものの、広く草津市民の方々に知ってもらうという点において、協働の形で出前講座に出動することが、障害のある方への理解促進に効果的ではないかとの考えから、ご提案いただいた。



⑯デザイン会議（くさつまちなかエリアプラットフォーム）

協働主体・役割

草津まちづくり株式会社

→くさつまちなかエリアプラットフォーム事務局として「つなぐ」役割を担当

草津市商工会議所

→くさつまちなかエリアプラットフォーム事務局として「育てる」役割を担当

都市地域戦略課

→くさつまちなかエリアプラットフォーム事務局として「支える」役割を担当

協働のきっかけ

草津市中心市街地活性化基本計画(2期)の期間満了に伴い、これまで培ってきた官民連携の取組をさらに深化させ、民主導のまちづくりを推進するための新たな指針として、「草津駅周辺エリア未来ビジョン」を策定した。

このことに伴い、草津市中心市街地活性化協議会の役割を「くさつまちなかエリアプラットフォーム」が引き継ぎ、さらに多様なまちづくり人材を繋ぎ、育て、支える場としてデザイン会議を設置することとなった。

事業概要

草津駅周辺エリア未来ビジョンに描いた「めざす将来像」を実現するために、まちに関わるすべての人に開かれたまちのHUB(結節点)として、まちの担い手たちが、まちづくり活動へ日常的に関わりをもつことができるよう、関わりしるとして集まる機会をつくり、都市再生推進法人であるまちづくり会社、草津市や商工会議所が、まちと人を有機的につなぎ、やりたいことをプロジェクトとして立ちあげる人を支援する。

取組内容と効果

令和7年度は全12回(毎月第3木曜日)のデザイン会議を開催し、計216人の参加があった。

実行委員会の立ち上げ等、事業化に至る事例が創出された。特に「くさつクリスマスマーケット」は、提案者を中心とした実行体制が構築され、アイデアが具体的な事業として実装される段階に至った。

コーヒーサークル等の活動が地域での出店や講演へ発展し、参加者が「担い手」として継続的に関与する状態が形成されつつあり、学生等の新たな担い手が主体的に関与する動きが生まれた。

学割アプリの提案や、まちなかでの出店・起業を志向する参加者が現れ、デザイン会議が新たなチャレンジの入口として機能し、学生等の新たな担い手が主体的に関与する動きが生まれた。

今後の展望

引き続き、デザイン会議を通して、多様な主体による共創によって挑戦を促し、未来ビジョンに掲げるビジョンやコンセプトに合った実効性の高いプロジェクトが、数多く生まれることを目指す。

